

千葉市 手をつなぐ育成会だより

第 155 号
平成29年(2017)11月 9 日
千葉市手をつなぐ育成会
会 長 島 田 貴 美 代
千葉市稲毛区作草部2-4-5
TEL・FAX 043-206-4050
✉ chiba-chibahands@dance.ocn.ne.jp



千葉南警察署で育成会ミッション

事件の加害者あるいは被害者として、また、トラブルが起きた際真つ先に関わって下さる警察官向けに、理解促進のための冊子「知ってほしい・知っておきたい」知的障害と警察」を

今年度も、知的障害児者理解啓発活動として、警察署、社会福祉協議会、民生委員などの研修で、説明の機会を設けさせて

知的障害がある人には、家庭や学校などで、小さい頃から物事の善悪や問題を避ける方法、社会のルールを繰り返し教え育てていくことが大切です。また、日頃からご近所や行動範囲のバスや駅、コンビニ店などにも見知っておいてもらい、地域の理解者・応援者を増やしていくことが重要です。

知的障害がある人には、家庭や学校などで、小さい頃から物事の善悪や問題を避ける方法、社会のルールを繰り返し教え育てていくことが大切です。また、日頃からご近所や行動範囲のバスや駅、コンビニ店などにも見知っておいてもらい、地域の理解者・応援者を増やしていくことが重要です。

知的障害がある人には、家庭や学校などで、小さい頃から物事の善悪や問題を避ける方法、社会のルールを繰り返し教え育てていくことが大切です。また、日頃からご近所や行動範囲のバスや駅、コンビニ店などにも見知っておいてもらい、地域の理解者・応援者を増やしていくことが重要です。

今年度も、知的障害児者理解啓発活動として、警察署、社会福祉協議会、民生委員などの研修で、説明の機会を設けさせて

知的障害がある人には、家庭や学校などで、小さい頃から物事の善悪や問題を避ける方法、社会のルールを繰り返し教え育てていくことが大切です。また、日頃からご近所や行動範囲のバスや駅、コンビニ店などにも見知っておいてもらい、地域の理解者・応援者を増やしていくことが重要です。

知的障害がある人には、家庭や学校などで、小さい頃から物事の善悪や問題を避ける方法、社会のルールを繰り返し教え育てていくことが大切です。また、日頃からご近所や行動範囲のバスや駅、コンビニ店などにも見知っておいてもらい、地域の理解者・応援者を増やしていくことが重要です。

知的障害がある人には、家庭や学校などで、小さい頃から物事の善悪や問題を避ける方法、社会のルールを繰り返し教え育てていくことが大切です。また、日頃からご近所や行動範囲のバスや駅、コンビニ店などにも見知っておいてもらい、地域の理解者・応援者を増やしていくことが重要です。

今年度も、知的障害児者理解啓発活動として、警察署、社会福祉協議会、民生委員などの研修で、説明の機会を設けさせて

知的障害がある人には、家庭や学校などで、小さい頃から物事の善悪や問題を避ける方法、社会のルールを繰り返し教え育てていくことが大切です。また、日頃からご近所や行動範囲のバスや駅、コンビニ店などにも見知っておいてもらい、地域の理解者・応援者を増やしていくことが重要です。

知的障害がある人には、家庭や学校などで、小さい頃から物事の善悪や問題を避ける方法、社会のルールを繰り返し教え育てていくことが大切です。また、日頃からご近所や行動範囲のバスや駅、コンビニ店などにも見知っておいてもらい、地域の理解者・応援者を増やしていくことが重要です。

知的障害がある人には、家庭や学校などで、小さい頃から物事の善悪や問題を避ける方法、社会のルールを繰り返し教え育てていくことが大切です。また、日頃からご近所や行動範囲のバスや駅、コンビニ店などにも見知っておいてもらい、地域の理解者・応援者を増やしていくことが重要です。

第51回千葉市手をつなぐ育成会関東甲信越大会 本人大会

自分をしあわせにしたい

暑い中、大勢の人が集まりました

支援者がテーブル（1テーブルに9〜10名、全部で10テーブル）に着席すると、最初は焼きそば、次いでフランクフルト、スーパースムージー、トン汁と次々に出てきて最後はスイカを食べました。気温が33度を超える猛暑で屋根付きの場所を貸切とした役員の方々に感謝です。

▽午後の分科会
午後からは話し合い組（四つのテーマ：趣味、仕事、いじめ、ぶっちゃけトーク）と森の散策組に分かれました。僕は散策組を希望しパークセン

森のホールでの全体会の開始まもなく、私と息子は、本人大会の会場となる、21世紀の森と広場（松戸市内最大の緑地で広さは50.5ha、東京ドーム10.7倍の中のもれ陽の森へ歩いて向かいました。15分程ですが大きな湖や豊かな緑は目の保養になり、心も癒される思いでした。

▽お昼はバーベキュー
バーベキュー会場では既にボランティアの方々が、汗だくになりながら準備していました。本人、保護者

外で食べる食事は最高!!

▽感想
本人大会に参加するのは初めてですが、バーベキューを美味しく食べ、息子や、「来年の全国大会は京都だつて、楽しみだな」と話す本人、「良い場所に来ているので、映画は見ずに娘と散歩させて欲しい」というお母さんがいたり、本人大会の意義を考える良い機会となりました。

（副会長 佐久間）

育成会のうごき 7月～10月	
7月10日	障害者自立支援協議会全大会
13日	平成29年度養護教育センター運営協議会
22日	関東甲信越大会・千葉県大会併催（松戸市）[本誌P3.4]
8月3日	千葉市社会福祉協議会ヒアリング
10日	千葉市へ要望書提出[本誌P1]
9月4・6・11・12・13日	各区おしゃべり会
11日	千葉市施策推進協議会
21日	心の輪を広げる体験作文・障害者週間ポスター審査委員会
23・24日	第4回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会（北海道札幌）
26日	千葉市における特別教育の在り方等に関する検討会議「第4次千葉市障害者計画・第5期千葉市障害福祉計画・第1期障害児福祉計画」の素案に係る障害者団体等ヒアリング
10月7日	第20回ワークホームまつり
10日	第17回全国障害者スポーツ大会千葉市代表選手団結式
14日	まさご祭り JR旅のプレゼント 大宮学園運動会
21日	ハロー・でいさく2017（ソーイング部出店）
24日	「どうしたらこの子の将来を守れるか」研修会
28日	ちしろまつり（千葉市立養護学校）

障がいを持つ子のお母さんのお話を聞く会

卒業。。。そしてその後

6月29日(木)、でい・さくさべ会議室にて、30歳前後の障害を持つ子の3人のお母さんから、子どもの成長や子育て経験を聞く会が開催されました。参加者は58人でした。

【生活介護利用者の母の話から】

今のように便利な放課後デイサービスや移動介護がなかった幼少期の苦労、特別支援学校に入学してからの学校とのコミュニケーションや家庭での愛情いっばいに、結果をあせらない子育て対応、外出時の配慮の他、本人の通所先や家庭での現在の様子、通所先への保護者送迎の話などがありました。病院を怖がらない様に定期的に歯科や病院で検診を受けてみる等、学童期から対応可能な話もあり、親のロングサポートについても考える良い機会になりました。

【就労移行支援利用者の母の話から】

西日本から千葉に移住され、本人の生活基盤の変化に対する不安の中で始まった小学校生活の事、中学校支援級での成長、特別支援学校の高等部での

学校との進路相談の事、就労移行支援事業所へ毎日安全に落ち着いて通所している様子や、本人の余暇について話がありました。本人を見守りながらも家族の生活も大切にする事を考えさせられたお話しでした。

【特例子会社就労者の母の話から】

就学前は他市で生活。千葉市移住で小学校を転校し、地域との関わりを新たに作った様子や、学校と養護教育センターとのコミュニケーションに努力したこと、本人の長所を生かしながら成長を支えて様々な経験を積んできた様子、小・中学校の支援級や特別支援学校高等部での本人の成長、特例子会社就労後の様子や家族との関わりについて話され、本人の意思尊重の大切さ

あめんぼクラブ

まだ今のように、放課後デイのような支援がなかった頃、「放課後活動をやりたい」という保護者の方々の声からその立ち上げを育成会がお手伝いし、放課後活動が始まりました。当初は5つのクラブができましたが、現在は唯一、『あめんぼクラブ』が毎週木曜日にこてはし温水プールで活動が続いています。

ボランティアさんの協力で、年齢が小さな子供たちは、プールでのマナーや、家族以外の方とのかかわり方などを本人のペースに合わせて体験できる場となっています。また年齢が上がった子供たちは、水泳のスキルも上達し、自信にもつながっています。

さらなる成長のため、また思春期の肥満防止や、ストレス発散にも役立たせた、充実感を持てる活動を目指しています。

一緒に活動する仲間を募集中です。また、お手伝いをして下さるボランティアさんも募集しています。

(副会長 長谷川)

も伝わるお話しでした。

【参加者の感想】

- ・お母さま方の生き生きとした姿が印象的でした。
- ・出来る事から積み重ねていきたい。
- ・次回はご本人も一緒に話が聞けたらと思いました。
- ・将来の暮らしについても聞きたい。

参加者の子どもの年齢は就学前〜40代過ぎと幅広く、三人三様の子育て話に熱心に聞き入り、うなずいたり考え込んだりしている様子は、各世代毎の様々な子育てへの思いを反映しているようでもありました。

(広報部 前田)

ごちそうさまでした

先日、広報部のメンバーで西千葉駅近くの地域活動センター「キッチン圓MARU」でランチをいただきました。こちらは、障害者の方もスタッフとして働いています。



てお腹いっぱいです。ランチ以外にも甘味があり喫茶タイムも営業しています。今度は是非あんみつでも・・・。

(広報部 村田)

第51回手をつなぐ育成会 関東甲信越大会 千葉大会 7・22 松戸森のホール

ここで暮らし続ける

全体会

千葉県報告

- 千葉県袖ヶ浦福祉センターの改革
- 養育園の利用者死亡事件後の見直し
- 大規模ケアから少人数ケアへ
- 外部の第三者の評価を受けながら見直しの進捗管理を実施
- 支援の質及び意識の向上を図る
- 施設内巡回時間の拡大、抜き打ち検査の実施等による県の監査・モニタリングを強化。パーソナルサポーター等の派遣

中央情勢報告

- 直面する当面の課題
- 地域生活支援拠点・総合支援法3年後の見直し・意思決定支援の推進・成年後見制度の利用促進・障害者虐待防止法の見直し・障害者差別解消法の地域展開・報酬改定・育成会の啓発・啓蒙活動

(会長 島田)

●第1分科会●

「心に栄養を注ぎましょう」というスライドを見て、グループ毎に自己紹介と感想を話しました。

千葉県の「まんま隊」と、埼玉県の「ファッシー隊」のお話から家族支援



プログラムの取組みの大切さと、工夫を聞きました。最後は明星大学教授の吉川かおり氏の講演です。「家族とは、障害のある人の被る社会的障壁を一緒に被っている、だから、支援が必要なんです」吉川先生のお話からは、たくさん元気と勇気をいただきました。

(副会長 長谷川)



和やかに家族支援ワークショップ

●第2分科会●

「知的障害のある子を知って欲しい」この思いから始まったキャラバン隊について堀江まゆみ氏(白梅学園大学教授)より、

【役割】多様性のある社会の気づき、

親性の社会化

【何を伝えるか】合理的配慮とは①相手の立場を自分の視点で考えられること②お互いがウィンウィンになることを喜べることであるとお話がありました。

座間、八千代、松戸、市川、それぞれのキャラバン隊からは活動や課題のお話がありました。

(副会長 大里)



市川キャラバン隊が熱演

●第3分科会●

全育連・統括の田中正博氏により、計画相談や相談支援専門員の役割の重要性についての講演がありました。シンポジウム「切れ目のない支援を求めて」では、松戸市cocoセンター長・

藤井公男氏が、暮らしのイメージを共有し地域で支えていくことが大事、彩会いろどり所長・橋本諭氏からは、本人に寄り添い、孤立しないネットワーク作りを心掛けている、そして同愛会、大泉福祉作業所支援課長・竹矢亘氏は、強度行動障害はマッチした環境で適切

な学習・対処が必要と話されました。

●第4分科会●

(副会長 土戸)

親亡き後の生活は、周囲が気づかなかつたり拒否しない限り、公的社会保障で一定のレベルの生活は保障されている。少しでも本人らしい生活をしていくには親がいる間に親も一緒に支える包括的ケアが重要であり、障害福祉と介護保険制度との引継ぎと連携が必要である。

知的障害者は、早ければ40歳代から高齢化するため、生活習慣病予防は20歳代から始め、地域医療に繋げていく。在宅医療には、訪問診療、訪問看護がある。緊急時の入院先や短期入所の確保も重要である。

(理事 松川)



●第5分科会●

相模原津久井やまゆり園事件から一年、多様性を認め合える共生社会を目指す。これから私たちはどうすべきなのか。

「親は疲れても幸せである」こと、「職員はしんどくても面白い」ことを共有していきけるよう、本人のために協力をすること。障害者差別解消法・合理的配慮について、関係者だけで盛り上がるのではなく社会全体にとって良いこととなるよう、まずは私たちが発信し続けていくことが重要である等の提言がなされました。

(副会長 成田)